やってみよう自分から　もっと生かそう学んだことを　ともに生きよう感謝の心で

谷本

学校だより

7月号

横浜市立谷本小学校
令和５年６月30日

HP アドレス　http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/yamoto/

「体験を通して学ぶことの大切さ」

副校長　松井　康仁

朝学校内を回っていると、校舎の外から「ホーホケキョ。」という鳴き声が聞こえました。もしかしたらと思い外に出て様子をうかがっていると、校内にあるヒマラヤスギの上の方から何度もその鳴き声を聞くことができました。ウグイスがいたのです。改めて谷本小学校の豊かな自然の素晴らしさを感じた瞬間でした。

先日５年生の道志体験学習に引率同行しました。道志村は大きな山に囲まれた本格的な自然が広がる場所で、横浜市の水源の一つとしても有名です。子どもたちは、田植え体験や水源かん養林の学習、竹細工や木工体験を通して、道志村の雄大な自然にふれることができました。またバスレクやキャンプファイヤー、民宿での生活を通して、仲間とともに最高の思い出をつくりたいと協力し合って楽しむ姿が見られました。

体験学習の場だけでなく学校生活においても集団で活動する場面では、一人一人が友達を大切に思い、時にはリーダーとして引っ張り、時には仲間を支えることで、お互いの理解を深め、よりよい人間関係を築くことができます。一方で我慢をすることも必要ですし、友達と自分との考えの違いを認識し、お互いが調整し合ってよりよい方法を導き出していくことも大切です。このような友達との関係の中で育っていく機会を今後も大切にしていきたいと思っています。

さて、いよいよ子どもたちが楽しみにしている夏休みが近づいてきました。先日たまたま見ていた番組で、小学校６年生の子が漢字スキルを自分なりに見直し、「漢ミツ」としてプレゼンテーションを行っている場面を見ました。その見事なプレゼンテーション能力が注目されていましたが、私は、いつもなら疑問や課題に思わないような出来事に興味関心をもって課題を見つけ、よりよい解決方法を自ら導き出していく姿に驚きました。

夏休みは子どもたちが自らの興味関心を耕し、「やってみようかな」「おもしろそうだな」というような好奇心を育み、実際の体験を通して課題を解決していくことができる絶好の機会です。子どもたちが様々な体験ができるよう寄り添っていきたいものです。夏休み明けさらに成長した子どもたちに出会えることがとても楽しみです。